

④研修履歴票

i) 「やまなし学び続ける教師のためのポートフォリオ」利用状況アンケート結果

1) 経緯

平成 28 年の教育公務員特例法の改正に伴い、教員の育成が大きく方針転換することとなった。本県でも教員育成協議会を開催するとともに、「やまなし教員等育成指標」を策定し、多くの先生方に自ら学び、不断の資質能力の向上を求めることとなった。同時に、山梨県総合教育センターでも研修を育成指標に沿った形で再構築してきた。令和元年度には、教員の研修への動機づけを高めるために「やまなし学び続ける教師のためのポートフォリオ」（以下「研修履歴票」とする。）の運用を開始した。

2) 研修履歴票の構成

研修履歴票は、①自身の受講した研修、②所属校や分掌名、③受講した研修の振り返りを、教員人生の続く 43 年間（65 才まで）を A3 版一枚の中に記載し、自身のキャリアを俯瞰して振り返るとともに、今後の教員としてのキャリア・プランを考えられるようになっている。

3) 研修履歴票の活用

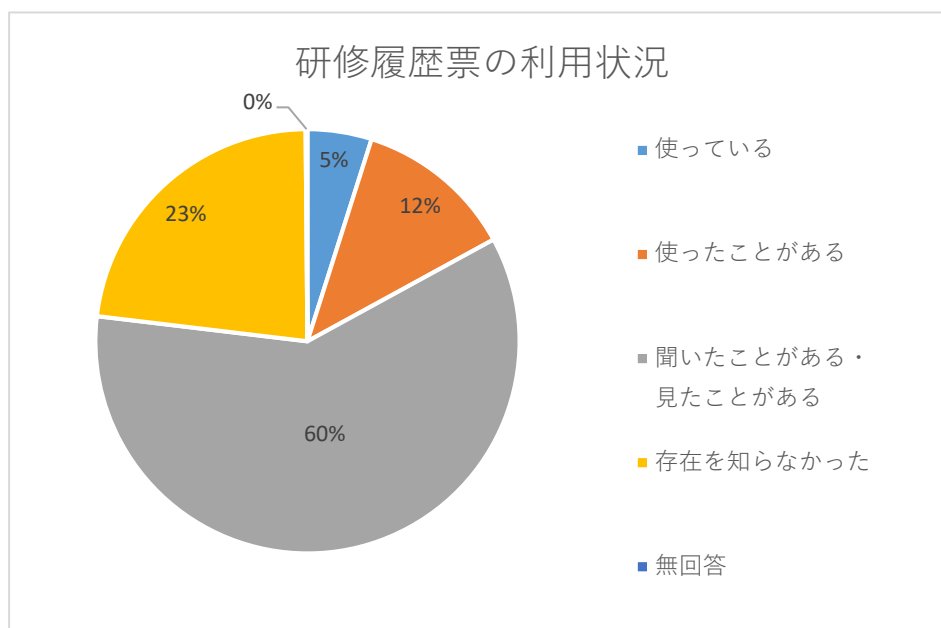
総合教育センターの HP 上に電子ファイルを置くとともに、夏期研修会の全ての受講者（135 本、延べ 6, 073 人）に配布し、案内するとともに活用を促した。

4) 研修履歴票の活用状況アンケート

令和元年末(11 月 25 日～12 月 9 日)に全ての教員を対象に、研修履歴票の活用状況についてアンケートを行った。

問「やまなし学び続ける教師のためのポートフォリオ」について、あなたの利用状況をお答えください。

(回答率 4, 332 人 / 7, 151 人 = 60. 6%)



使っている	使ったことがある	聞いたことがある・見たことがある	存在を知らなかった	無回答
212	526	2593	995	6
4. 9%	12. 1%	59. 9%	23. 0%	0. 1%

5) 成果と課題

<成果>

- ・活用状況について、回答者のうち 76.9%が、「使っている」「使ったことがある」「聞いたことがある、見たことがある」と答えており、初年度としては、一応の認知を得られていると考えられる。
- ・自由記述による回答では「1枚で全体が見られるのが良い」「自分の立ち位置を確認出来、教員としてのキャリアステージにあった研修を自分で選ぶことで、より主体的に学ぶことが出来るようになる」等、当初のねらいが達成されていることがうかがえた。

<課題>

- ・「存在を知らなかった」23%程の教員への周知を徹底するとともに、教員が日常的に活用するように、具体的な使い方を含めた広報を行う必要があると考える。
- ・研修履歴票自体が必要ないと考えている教職員もいるが、多くが自分の振り返りになると回答している。「研修を受けること」だけが目的とならないよう研修を受講したことによる手応えと充実感、実践の場面でその内容が「活かしている」と感じられる研修を企画し実施していくが必要であると考える。
- ・研修履歴票は、電子ファイルを教員一人一人がダウンロードして自己管理する必要があるが、利便性の点から、教員が受講した研修会を総合教育センターHP上で直接確認することが出来るようにシステムを改編する必要があると思われる。

6) まとめ

- ・学び続ける教員を支援するための取り組みとして始まった研修履歴票であるが、周知等においては一定の成果を得ることができた。教員自身がキャリアステージを自覚し、資質能力の向上が成されたかどうかの評価は時間がかかると思われるが、短期的な成果は認められる。今後は、研修履歴を埋めるために研修を受講するのではなく、資質能力の向上を求めて研修を受講する風土を培うことに注意を払う必要がある。
- ・他県でも同様の取組みを始めているが、ステージ毎の冊子（キャリア・ノート）の形式であり1枚ポートフォリオは「本県独自」のものである。
- ・教員研修と多忙化の改善は相反する事柄ではあるが、学び続けようとする教員の支援のために山梨県総合教育センターでは、上質の研修会を提供していきたい。